救世軍公報

GOOD NEWS
ときのこえ

War Cry
2月号
福音版
2021
February
No.2813

二〇二一年　二月一日　発行

明治二十八年創刊　福音版・毎月一日発行　広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

キリストの鬼退治

石川和男

二月といえば節分です。「鬼は外！　福は内！」の掛け声を今ほど切実に感じるのは私だけではないと思います。

「コロナ外！」と心から叫びたくなります。昔から、洋の東西を問わず、人は自分に襲ってくる邪悪なものを払いのける願いをもち続けています。鬼を退治する漫画が記録的なヒットとなり、社会現象となるのもコロナ禍の中だからこそと言えるかもしれません。

聖書にも、イエス・キリストの鬼退治が描かれています。鬼といっても日本の鬼のイメージとは全く違うものです。聖書の中での鬼は、「悪霊」という名前で、人間を損なう者として登場します。聖書に、

「イエスが陸に上がられると、この町の者で、悪霊に取りつかれている男がやって来た。この男は長い間、衣服を身に着けず、家に住まないで墓場を住まいとしていた。……この人は何回も汚れた霊に取りつかれたので、鎖でつながれ、足枷をはめられて監視されていたが、それを引きちぎっては、悪霊によって荒れ野へと駆り立てられていた」（ルカによる福音書8章27、29節）

とあります。悪霊に苦しむこの男性のありさまが生々しく伝わってきます。とても気の毒な状態でした。この男性と出会ったイエスは、彼の中に取りついている悪霊に向かって出て行くよう命じました。すると、

「ところで、その辺りの山で、たくさんの豚の群れがえさをあさっていた。悪霊どもが豚の中に入る許しを願うと、イエスはお許しになった。悪霊どもはその人から出て、豚の中に入った。すると、豚の群れは崖を下って湖になだれ込み、おぼれ死んだ。」（同32、33節）

たまたま居合わせた豚たちにとってはとんだ災難でしたが、悪霊は消滅しました。

ところで、現代において鬼や悪霊として最も恐れられるものの実態は何でしょうか。それは、利己心ではないでしょうか。近年、天災が激しくなっている原因に、人類が自分の便利さ、快適さを追求したことがあると言えるでしょう。そして、この「利己心」こそが、人類が長年抱えている根本的な「病」なのではないでしょうか。その人類の「利己心」をイエス・キリストは御自身の身に引き受けて、十字架に架かってくださいました。その様子を聖書はこう表現しています。

「彼が担ったのはわたしたちの病　彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに　わたしたちは思っていた　神の手にかかり、打たれたから彼は苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは　わたしたちの背きのためであり　彼が打ち砕かれたのは　わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって　わたしたちに平和が与えられ　彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。」（イザヤ書53章4、5節）

イエス・キリストは、癒しの神です。わたしたち自身の力ではどうにも退治できない利己心という「鬼」を十字架上で滅ぼされ、わたしたち人類に癒しの道を拓いてくださいました。イエスは、嵐を鎮め、重い病を抱えた女性を癒し、亡くなった少女を生き返らせました。イエスは、常に悲しんでいる人々、重荷を負っている人々の傍らにおられ、その心に寄り添われました。

今も、イエスはあなたの心に寄り添われ、あなたの重荷を共に担おうとされておられます。彼に人生を委ね、「イエス様、共に私と歩んでください」と祈るとき、イエスはあなたの傍らに来て、あなたの心の鬼退治をしてくださいます。そして、心の嵐を鎮め、癒しを与えてくださるのです。

（救世軍士官〔伝道者〕）

Boophuket/Shutterstock.com

信仰の体験談　証言のページ

救世軍江東小隊　小隊長

フィリップ・マカチェンさん
セジャール・マカチェンさん

＜プロフィール＞
2020年、7歳と4歳のお子さんと共に米国の救世軍から来日。東京・錦糸町にある救世軍江東小隊（教会にあたる）の小隊長（牧師にあたる）として夫婦で働きを開始し、宣教のために心を砕いている。共に救世軍士官（伝道者）。

二〇二〇年十一月、米国から一組の宣教師家族が来日しました。米国出身のフィリップさんとインド出身のセジャールさんが出会ったのは、アルゼンチン。救世軍江東小隊（教会にあたる）で働きを始めた二人が、来日までの人生を語ってくださいました。

アルゼンチンでの二週間の宣教活動で出会い、互いに惹かれ合いました

セジャール　インドで政治学学士を取得した私は、青年宣教グループ（YWAM）に所属し、アルゼンチンのブエノスアイレスに遣わされました。そこで四年間、人身取引防止及び救済活動や国際刑務所でのチャプレン、児童伝道に従事しました。そして、二〇〇九年六月、宣教師の通訳をしていた時に、フィリップに会ったのです。彼は、短期宣教チームの一人でした、その二週間の間に、私はフィリップが心から神様を愛し、宣教に情熱をもっていることを知り、お互いに惹かれ合いました。二人の関係は急速に進展し、その年の十一月には彼がアルゼンチンに再びやって来たのです。ちょっと人生を早回しすると、翌年に米国カリフォルニアで結婚し、二人のとってもかわいい娘に恵まれました。神様の祝福です。

突然の病気で、「神様の示す道」を求め始めました

フィリップ　クリスチャンの家庭で育った私は、幼い時にイエス様を信じ、いつでも自分はクリスチャンだと公言。正しいことはすべておこない、聖書を読み、常に祈っているクリスチャンだ、と思っていました。また神様は、私のごく小さい頃から、宣教師になりたい、という願いの種を私の心に蒔いておられました。

高校、大学と、神様のためにできることは何でもしたいと思って生活していましたし、神様のためにできることはわかっている、と思っていました。けれども、神様が望んでおられることだ、と「私が」思ったことをしようとしても、実現しませんでした。聖書に

「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり　わたしの道はあなたたちの道と異なると　主は言われる」（イザヤ書55章8節）

とありますが、神の御心を求めるのではなく、私が、神様を喜ばせようとしていたのです。

そんなある日、緊急入院する事態となり、そのことによって、私は神様の御計画に引き戻されました。その経験から、自分の意志ではなく、神様が私の人生にもっておられる御心に従わなければならないことが示されました。それにお従いするなら、神様は私のすべての必要を満たしてくださるだろう、と。私は人生を振り返り、自己チェックをしました。その入院中に私の人生の流れは変わり始めました。私は、神様に私の人生の完全な支配を委ねたのでした。そして、神様は、私を救ってくださった方というだけでなく、私の人生の主となられました。私が幼い時にイエス様を救い主として受け入れた時から、この聖書の言葉が私の心に残っていました。

「あなたはいのちの道をわたしに示される。あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、あなたの右には、とこしえにもろもろの楽しみがある。」
（詩篇16篇11節・口語訳）

入院の経験以来、私と神様との関係は深まり続け、数年後、神様は、あり得ないと思っていたところへ私を導いていかれました。神様の御心に素直に従うことを通して、神様は、私をオハイオ州デイトンにある「祈りによる宣教」の一員にしてくださり、その後、デイトンとアルゼンチンを拠点にしているYWAMに導いてくださったのです。

学歴や「物」で人生を満たそうとしていた時に、イエス様が……

セジャール　私は、インドで救世軍の信徒の家庭に生まれました。救世軍の信徒として私は五代目にあたります。父は会社員ですが、三十七年にわたって、所属する小隊で青少年のための働きの責任者として活動しています。母は、教師として公立の小・中学校に勤務し、最近、校長を最後に定年を迎えました。

私には二人の兄がいて、私は末っ子です。看護師の長兄は審議官をしている米国人の女性と結婚して二人の子どもとカリフォルニアに、セラピストの次兄は科

学者のインド人女性と結婚し、カナダに一人息子と一緒に住んでいます。

私は、小さい頃からインドで救世軍主催のキャンプや研修会にいくつも参加して、同年代の友人と神様についてたくさん学びました。けれども、成長するにつれて、学歴と「物」に心が奪われ、自分の人生を所有物で満たしたいと思うようになりました。その思いがだんだん自分を見失わせていきました。物を手に入れると一瞬喜びを感じますが、その喜びはすぐに消えます。やがて、自分自身に不満を感じるようになりました。

心の平和が失われ、周りの人、家族、友人、そして最終的には、神様に腹を立てている自分に気づきました。その時から、このままの人生を送りたくない、と何時間も聖書を読み、神様に助けを求め始めました。

二〇〇三年三月二十三日のことです。昼寝をしていて夢を見ました。その夢の中では、イエス様が両手を広げて私の目の前に立っておられました。そして、天使が私の肩を後ろから包んでいるのが見えました。天使は私に、振り返らずに正面を見るように言い、私は目の前のイエス様をしっかりと見ました。

すると、イエス様は、「娘よ来なさい。あなたをこの腕で包み、平和を与えよう。あなたの行くべき道を示そう」と私に言われました。その瞬間、私は人生の終わりまでイエス様に従うことを決心したのでした。

写真上より
・アルゼンチンで出会った頃の二人
・インドの小隊で祝福を祈ってもらった時
（前列左から２番目がセジャール。続いて、父と母）

神様の導かれるところならどこへでも、という思いで救世軍士官に……

フィリップ　神様は、本当に自分の予想もしなかったことに導かれました。アルゼンチンで、神様は最高の女性に会わせてくださったのですから。先ほど紹介した詩編の言葉どおりでした。セジャールを通して、神様は私たちの人生の次の段階を見せ始められました。

私たち二人は、結婚時には、人生のすべてを宣教のために献げるよう神様の招き（召命）を得ていました。私たちには、ＹＷＡＭと救世軍という献身の二つの道がありました。前に進もうと行動し始め、ＹＷＡＭと連絡を取って進路の計画を立てましたが、それは不調に終わり、心の平安を失いました。神様は、救世軍での私たちの献身の道を開き、準備しておられたのでした。

セジャール　私の両祖父母が救世軍士官（伝道者）でしたので、その影響もあり、私は、かつて母国インドで士官としての献身を考えたこともありました。けれども、インドでは、士官になるには結婚している必要がありました。まだ結婚する心の準備ができていなかった私は、一旦士官になる気持ちを脇に置いていました。

それで、フィリップと結婚した後、私は、自分が救世軍士官としての召命をいただいていることを伝えました。私たちは互いに祈り合って、神様の導きを求めることにしたのでした。二人で救世軍について語り合う中で、神様は明らかに私たちを救世軍士官へと招いてくださっていることを確信しました。そこで、米国で救世軍士官となる訓練を受けることになりました。

フィリップ　私たちは、士官となって六年目を迎えました。八年前に救世軍士官学校（神学校にあたる）に入学する前、私たちは、神様が米国以外の国で働くよう導いておられることを自覚していました。三年前、私たちは神様に促されるように、海外での奉仕を申し出ました。その時に、宣教先の一覧表にあった「日本」という文字を見てから、私たちは日本に関心をもつようになったのでした。

日本での任命をいただいて許可が下りるまで、また今回の来日までの道は、容易ではありませんでした。入国の許可が出るまで米国での一時的な任命を受けたのですが、そこでは何度か米国でも最も有毒だと言われるサソリに刺されました。もちろん、新型コロナウイルスの影響も受けました。

今こうして日本に来ることができましたが、私は、待っている間も、常に神様がすばらしいことを用意しておられることを知っていました。私たちを落胆させようとすることがいくつもあったにもかかわらず、です。良い同僚にも恵まれ、励ましてくれたことにも改めて感謝しています。

私たちは、日本において神様の手となり足となり、神様がくださる希望と愛、そして恵みをすべての人に分かち合いたいと願っています。神様の導きに従って、神様が人々に備えておられる道を共に見いだし、神様がそのお一人おひとりに、平和と希望、そして神様を求める思いをもたらしてくださるように、と願っています。

自分の人生を振り返ると、辛い時にも良い時にも、生涯を通して神様の御手が見えるのです。神様はいつも私と共にいてくださいました。自分のことで忙し過ぎてしまう時には、神様は私に、立ち止まり、ただ神様と一緒にいるように、と望んでおられることを示してくださいました。これからも神様の備えてくださっている御計画に従い続け、神様のすばらしさとその御栄光を現すことができますように、と祈っています。

セジャール　神様が私たちを導かれるところにはどこにでも行き、神様の願っておられる働きをするだろうと私たちは信じています。日本においても、私たちの働きや音楽による宣教を通して、イエス様の福音を多くの方々と分かち合っていきたいと願っています。

「わたしはあなたを目覚めさせ　行くべき道を教えよう。あなたの上に目を注ぎ、勧めを与えよう。」（詩編32編8節）

この私の好きな聖書の言葉を力に、歩んで行きます。

WINDOWS on the ARMY WORLD

世界をみつめて

〈全世界〉新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響下での支援

●中国

雲南省にある落水は、昆明から車で約3時間の村落で、多くの子どもたちが、出稼ぎのため村を出た親と離れて暮らしています。香港の救世軍は、2019年より落水地域の中学校との関係を築いてきており、中学校と連携した感染対策プロジェクトを進めています。石鹸やマスク等衛生用品と感染予防情報を入れたカバンを学生に配布しました。また、COVID-19ポスターコンテストを通じて啓蒙活動を促進し、優秀作品を近隣地域に展示しています。

さらに救世軍は、登校時の検温のための非接触型体温計を入り口に設置しました。その他、地域の高齢者支援も学校を通じた連携でおこなっています。

（写真上より）
・生徒に衛生セットを手渡す
・かわいいイラスト付きの衛生セットのカバン

●英国

2020年12月8日（火）、ウィンザー城において、コロナ禍の中で人々の生活を支えている人々に対し、英王室から敬意を表す行事が開かれました。

救世軍の代表者も招かれ、エリザベス女王より、救世軍を通してなされている支援活動への感謝をいただきました。クリスマス・カロルの演奏も救世軍のブラスバンドによってなされ、エリザベス女王の個人的なリクエストに応えて、「あめには さかえ」の賛美歌も演奏されました。

写真 © オルタナ編集部

〈日本〉救世軍の児童養護施設での取り組みが、環境省主催の賞を受賞

環境省主催の第8回「グッドライフアワード」の最優秀賞に、救世軍機恵子寮の子どもたちの支援と共に里山保全に取り組んでいるNPO法人東京里山開拓団（代表 堀崎茂氏・写真左）の「荒れた山林を児童養護施設の子どもたちと伐り拓いて里山づくり」が最優秀賞を受賞しました。

2020年12月5日（土）、の授賞式では、すべての受賞団体による環境及び社会課題における優れた取り組みのプレゼンテーションがありました。

式には機恵子寮の高田祐介施設長（写真右）も出席。子どもたちの「また行きたい」との声によって続けられてきたことを紹介し、里山と子どもたちに有益な働きの意義を強調しました。

救世軍とは？ What is The Salvation Army?

心は神に　手は人に　Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界131の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウイリアム・ブースによって始められ、家のない人々、アルコールの悪影響下にある人々、搾取される女性や子どもたちに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本での働きは、1895（明治28）年に始まり、伝道の拠点である小隊（教会にあたる）を開設。廃娼運動、失業者対策、病院の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて、様々な働きを興してきました。現在の新型コロナウイルス感染症の影響下においても、小隊、社会福祉施設、病院は、感染予防策に最大限努力し、活動をおこなっています。

日本人で最初に救世軍士官（伝道者）となったのは、山室軍平。わかりやすい言葉を用いた説教や聖書解説を貫き、同時に、政治・経済界の要人の救いのためにも祈り、交流を重ねました。今年ドラマ化され注目されている渋沢栄一は、救世軍創立者の来日歓迎会や、救世軍の病院建設の発起人を務め、救世軍を応援してくださいました。渋沢の最晩年に、山室が渋沢の自宅で聖書講義をした記録が残っています。

救世軍公報　ときのこえ
発行日　福音版／毎月 1日、広報版／奇数月 15日（除く7月）
定　価　福音版／1部40円、広報版／1部100円
　　クリスマス特集号（12月1日号）／1部100円
発行兼　救　世　軍
印刷人　代表者　ケネス・メイナー
編集人　寺澤　眞由子
発行所　救世軍本営　https://www.salvationarmy.or.jp
〒101−0051 東京都千代田区神田神保町2−17
電話　03−3237−0881（代表）
Mail　jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所　ピーアンドエス
@SArmyJP　SArmy_JP　救世軍 The Salvation Army

聖書は新共同訳を使用しています　©共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会　救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営（左記）、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

□ 私の近くの救世軍を紹介してください。　□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□『ときのこえ』の購読を申し込みます。　□ 相談を希望します。